

町内各所で浦和レッズのサッカー教室 プロ指導者らとの交流深める

9月28日、29日、「浦和レッズハートフルクラブ」のサッカー教室が町内各所で行われ児童生徒218人が、講話や実技指導を通じ、交流を深めました。同教室は被災地の子どもたちの心のケアを目的に行われているもので、同クラブの訪問は今回で12回目。山田幼稚園では、元プロ選手を含むコーチ陣と一緒に元気にボールを追いかける園児たちの姿が見られ、参加した清水優海君(5)は、「みんなでボールを蹴ったり追いかけたりするのが楽しかったです」と大きく声を弾ませていました。



震災と命の大切さを語り継ごう 「つなげるいのちの写真展」に260人

震災当時の被災状況や捜索活動の写真などを展示公開する「山田町つなげるいのちの写真展」(同実行委員会主催)が10月1日、2日、町中央公民館で開かれました。震災を風化させず命の大切さを語り継ごうと行われた同写真展には約260人が訪れ、関係機関が提供した展示資料に目を注いでいました。初日には復元納棺師の笹原留似子さんが「いのち輝かせて」と題し講演。長年遺族らに寄り添ってきた様子を紹介し「大切な人の死をどう受け入れるか心の向き合い方が大事です」と強調していました。

秋の交通安全運動街頭啓発 指導員らが事故防止呼び掛ける

「安全運転をお願いします」——。秋の全国交通安全運動街頭啓発活動が9月29日、長崎地区の旧7分団屯所前の交差点と中央公園前の国道45号沿道で行われました。活動には町交通指導隊や交通安全母の会など30人が参加。ドライバーへ啓発用のチラシなどを配りながらライトの早め点灯などと呼び掛けました。あいさつに立った宮古警察署交通課の八重樫宏司課長は「今年は町内で交通死亡事故は起きていませんが、事故を防ぐには継続的な取り組みが必要です」と運動への協力を求めています。



豊間根小・船越小児童が定置網漁体験 飛び跳ねる魚に歓声上げる

地元漁業への理解を深めようと9月27日、豊間根小学校(富澤広子校長、児童120人)と船越小学校(石川修司校長、児童70人)の5年生38人が合同で定置網漁を体験しました。児童らは船越湾漁協の定置網漁船で船越魚市場前から大島漁場へと移動。船員の皆さんと重い網を引き上げると、水しぶきを上げて飛び跳ねるシイラやサバなどの魚の様子に歓声を上げていました。豊間根小の菊地陽太君は「網がとても重くて漁の大変さが分かりました」と船員の皆さんの手慣れた作業に感心した様子でした。



町の木だいの

今月の題字 豊間根 ^{はやと} 駿斗君（豊間根小4年）



ウォーキングイベントに60人 家族らがウォークラリーで交流

東北復興支援運動体実行委員会が主催するウォーキングイベントが10月15日、町B & G海洋センター体育館で行われ、家族連れなど約60人が交流を深めました。同体育館をスタート・ゴールとするウォークラリーでは、会場周辺4キロのコースを出題されるクイズを解きながら楽しそうに歩く人たちの姿が見られ、元東京ヤクルトスワローズの矢野和哉さん（かずや）も参加し、花を添えていました。館内では専用のストーンを滑らし点数を競うスライドカーリングなどの体験会も行われ、飯岡倫ノ佑君（りんのすけ）（9）は「とても面白かったです」と感想を寄せていました。



認知症セミナーで気仙劇団公演 寸劇で対処法など楽しく学ぶ

10月15日、町主催の「認知症セミナー」が町中央公民館で開かれ、町民約200人が寸劇などを通じ認知症への理解を深めました。寸劇を披露したのは国内外で活躍する「気仙ポケ座」で、今回が3度目の来町公演と本町でもお馴染みのボランティア劇団です。舞台では団員が当事者に扮し、物忘れの特徴や接し方などをリアルな家族像で演目ごとに紹介。その独特の気仙なまりやユーモラスな演技が終始笑いを誘い、客席の参加者らは何度も手をたたきうなずいたりメモを取ったりと認知症の予防方法や家族の対処法などを楽しく学んでいました。

